



玉集

秋



紀略古今類聚彙編

秋之部

七月一	秋初涼三	秋暑四	星火六	星之宵七	星別八	候小霜八	星何九	星初十二	切氣十三
八月一	秋秋三	初嵐四	七夕六	星之八	星星八	候梧九	星日十	星語十二	字燈氣十三
九月一	今日秋三	初寒五	星象七	星迎八	星象八	候涼九	星迎十一	迎鐘十二	迎中十三
十月一	今秋二	初秋四	星合七	逢星八	立寒八	候葉九	星迎十一	燈氣十三	送火十四



柳經	十四	施綠鬼	十四	生牙玉	十四	刺蜂	十四
蓮飯	十四	粉符	十五	生牙	十五	麻壳	十五
鼠尾叶	十五	盆	十五	法入	十五	海	十六
病	十七	桐一葉	十八	柳一葉	十九	木犀	二十
幕	廿一	木槿	廿二	女郎花	廿三	男郎花	廿四
藥	廿五	梧榎	廿五	蕨	廿六	蕨	廿七
轉花	廿七	芙蓉	廿八	葛	廿八	秋海棠	廿八
芙蓉	廿八	紫苑	廿九	花	廿九	刈草	廿九
菊	廿九	蓼	廿九	蓼	廿九	鳳仙花	三十
芭蕉	三十	水引子	三十	黃袴	三十	稻花	三十
栗	廿一	葡萄	廿一	蓼	廿一	黍	廿一
野	廿二	西瓜	廿二	冬瓜	廿二	黍	廿二

病	廿二	蓮實	廿二	冬草	廿二	秋叶	廿二
柳	廿二	蟻	廿三	寢馬	廿四	陽柳	廿四
養虫	廿四	藤虫	廿四	蛭	廿四	秋	廿五
鈴虫	廿五	唐虫	廿五	蟬	廿五	秋	廿五
秋	廿五	秋	廿五	秋	廿六	秋	廿六
秋	廿六	秋	廿六	秋	廿七	秋	廿七
秋	廿七	二百十日	廿七	鳥	廿七	鳥	廿七
引板	廿八	信	廿八	鳴	廿八	葉山子	廿九
露水	廿九	行	四十	閏七月	四十	八月	四十
葉月	四十	八	四十	田	四十一	叶	四十一
局	四十一	局	四十一	月	四十一	月	四十一
之	四十一	之	四十二	之	四十二	之	四十二

秋夜	四十三	長夜	四十三	二日月	四十四	二日月	四十四
夕月	四十四	宵月	四十四	待宵	四十四	八日月	四十五
名月	四十六	今日月	四十七	月と宵	四十八	月是	四十八
草名月	四十九	月	五十	十六夜	五十一	五夜月	五十一
尾結月	五十二	秋結月	五十二	秋結月	五十二	夜中月	五十二
秋月	五十二	雨月	五十三	星月夜	五十三	初月	五十三
芒	五十四	尾芒	五十五	尾芒	五十六	草芒	五十七
茅種	五十七	小茅芒	五十七	初月	五十八	鳥	五十九
庚辛子	五十九	葛花	五十九	葉生	五十九	芥子	五十九
間引	五十九	穉刈	五十九	粟刈	六十	胡麻刈	六十
稻	六十	早稻	六十	晚稻	六十	田	六十
毛見	六十	田刈	六十	稻刈	六十一	御稻	六十一

為種	六十一	秋米	六十一	七草米	六十一	燒米	六十一
稻種	六十一	初稻	六十二	鷹	六十二	蠶俣	六十三
鴨	六十三	鶉	六十三	阿比	六十三	割	六十三
鶉	六十四	山雀	六十五	鶉	六十五	鶉	六十五
鶉	六十五	秋鶉	六十五	秋風	六十六	暴風	六十七
秋日	六十八	秋空	六十八	秋山	六十八	秋海	六十九
秋川	六十九	秋水	六十九	秋雨	六十九	秋霧	七十
露霜	七十	水露	七十	霜	七十一	函官	七十一
古難保	七十一	後彼岸	七十二	九月	七十二	長月	七十二
十三夜	七十二	豆名月	七十二	后の月	七十三	早稻酒	七十四
秋酒	七十四	今年酒	七十四	秋酒	七十四	後難	七十五
九日葉	七十五	葉	七十六	望葉	七十七	葉	七十八

秋	七十九	秋	七十九	目三
秋	八十	秋	八十	
秋	八十一	秋	八十一	
秋	八十二	秋	八十二	
秋	八十三	秋	八十三	
秋	八十四	秋	八十四	
秋	八十五	秋	八十五	
秋	八十六	秋	八十六	
秋	八十七	秋	八十七	
秋	八十八	秋	八十八	
秋	八十九	秋	八十九	

秋二百五十二歌余

俳諧古今類歌集

小篔簹破嵐選

橋梁左々々  
春山文蕉  
校合

秋之部

七月	七月やきりの朝風木子りるる	長翠
	せしちせし月らるる月夜も	連志
	あな月や子供さるるるの海	長翠
	さりのち月夜きりてさるるる	三彦彦
	さりの月夜きりてさるるる	蕉雨
	さりの月夜きりてさるるる	静雨

文月



陸奥の流とに林のまげうめ、  
 立林をよとらの風もさるせり  
 あまのま風を林もはやうれ  
 魚の眼も林もとれまあり市の中  
 林も川とらあやましく井の源色  
 衣戸うらう月のまらし林のま  
 ころまの流黄うれやうまの林  
 毛津もま津も留まうりまの林  
 板売の輪舟りり市余けあう林  
 常きあてまのまらうりまのま  
 とれ林風うれまあふちる  
 林も起てまあまうやけまの林

如洋  
 雪哉  
 文雪  
 南楚  
 麥秋  
 暮歌  
 曉臺  
 長翠  
 全  
 三千彦  
 全  
 素槩

今朝の秋

舟もーあひまもやとれ林  
 うま林もつりーまうりまの林  
 杓把垣のまや荒まらけまの林  
 林もくまらまをまらけまの林  
 まらまらまらまらまらまの林  
 居まらまらまらまらまの林  
 芒うらまらまらまらまの林  
 野池のまらまらまらまの林  
 まらまのまらまらまらまの林  
 かま川もまらまらまらまの林  
 まらまのまらまらまらまの林  
 名もまらまらまらまらまの林

篤老  
 鳳朗  
 翠蓋  
 長莊  
 丁知  
 鳳石  
 石坡  
 祖郷  
 一朗  
 系友  
 一阜  
 志丈

秋初涼

來秋

今日の秋

林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎  
林もめでたきしと集ぬハ重葎

長翠  
三千彦  
長翠  
涼湖  
花江  
有木  
東泉  
一泉  
松葉女  
志丈  
長翠  
素霞

初秋

發暑

初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎  
初秋の風もめでたきしと集ぬハ重葎

一泉  
白雄  
三千彦  
全  
可都里  
二三  
伯丈  
下七  
里霞  
三千彦  
成美  
寥松  
應々



初嵐

春のやぶに花をまきしけの様あり  
ちの田ち二木をまきむはあやかし  
掃くまを掃くも掃くあつきの風  
掃くまを掃くものもあやかし  
春のやぶに花をまきしけの様あり  
ちの田ち二木をまきむはあやかし  
掃くまを掃くも掃くあつきの風  
掃くまを掃くものもあやかし

茶静  
旬光  
葛古  
有木  
如洋  
蘭中  
川帶  
鳥醉  
白雄  
保吉

稲妻

いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり  
いそぎに東にむくあつきの風あり

荷乙  
谷苗  
有木  
苴丸  
涼湖  
確嶺  
交樵  
白雄  
全  
長翠  
三平彦  
全

以れつやとり合もなき不取の岸  
 稀まありあふける宵や星の汗  
 いまはくや園の青乃神へ入  
 稀まれば思ひ入るまふれ  
 以るは海の小れまはけや雲高橋  
 稀まや待幼来の人まふれ  
 いまはくやまはれ又えま馬の上  
 稀まやまはれ又えま馬の上  
 稀まの流まはれ又えま馬の上  
 いまはくやまはれ又えま馬の上  
 稀まやまはれ又えま馬の上

三千彦  
 全  
 可都里  
 全  
 葛三  
 全  
 成美  
 申齊  
 けを  
 斗筵  
 茶静

初月

いまはくやまはれ又えま馬の上  
 稀まやまはれ又えま馬の上  
 稀まの流まはれ又えま馬の上  
 いまはくやまはれ又えま馬の上  
 稀まやまはれ又えま馬の上  
 稀まの流まはれ又えま馬の上  
 いまはくやまはれ又えま馬の上  
 稀まやまはれ又えま馬の上  
 稀まの流まはれ又えま馬の上  
 いまはくやまはれ又えま馬の上  
 稀まやまはれ又えま馬の上  
 稀まの流まはれ又えま馬の上

五十二  
 雨紅女  
 江戸  
 卜蛙  
 三千彦  
 全  
 全  
 斗入  
 壺半  
 伯支  
 白雄  
 保吉  
 三千彦

花火

七夕

木下...  
...  
七夕や...

荳村  
花江  
夢歌  
涼湖  
葛三  
全  
成美  
且々  
蒼乳  
史千  
東泉

星祭

七夕...  
...  
星祭

有木  
左々  
三彦  
全  
全  
全  
卧鵬  
宇南  
桃吏  
静兩  
春鴻  
長翠

星合

星今宵

星今夜影をさす人のお光  
ほしかなやあつとも向乃取人あせ  
星をさすひまをさすてふむ人あつん  
星のおかしにほせの障りぬらうり  
押さの種あんなほし乃今宵か  
不のつたあちる月とらんてあつね  
星今夜影をさすともあつん  
あつらうて月とらんてあつ今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
おのつたあちる月とらんてあつね  
あつらうて月とらんてあつ今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵

可都星  
伯才  
曉臺  
長翠  
全  
全  
三千彦  
全  
梅令  
阿兮

星の戀

星迎

逢星

星今夜影をさす人のお光  
人あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵  
あつ七の種あんなほし乃今宵

静雨  
素霞  
花江  
乙二  
茶静  
長翠  
旬光  
樗良  
樗堂  
角杖  
青川  
静雨

星の別	星彦	願系	立琴	貸小袖
文の松と魚ハ星彦のわくれうぬ	松杉もぬさてしほりのあまきか	ま辰年のおひらぬをふかされたり	ふく星彦の儀しつるなりその中	まらしゆや解ひの糸の吹る音
保古	如毛	系友	乙二	荷乙
茶静	乙二	左子	茶静	左子
乙二	茶静	乙二	茶静	乙二

鶴橋	硯洗	梶の葉
貸小袖	けし小袖	うき花や羽衣をうてきき夕
文玉	雨紅女	三千彦
三千彦	午影	三千彦
確嶺	良梁	長翠
三千彦	三千彦	三千彦
月居	寥松	一具

銀河

群ふりくくぬ林を握りて  
鏡波の流るるをさしめし  
あふの川をさしめし  
ては河を流るるをさしめし  
清き水も物のさしめし  
さしめしやさしめし  
もさしめし  
木をさしめし  
さしめし  
銀河をさしめし  
あふの川のさしめし

長 莊  
鳥 醉  
白 雄  
士 朗  
可 都 里  
樗 堂  
蕉 兩  
一 茶  
大 梅  
應 々  
鹿 太  
荷 乙

あふの川のさしめし  
地をさしめし  
あふの川のさしめし  
天の川をさしめし  
あふの川のさしめし  
市井や人のさしめし  
あふの川のさしめし  
あふの川のさしめし  
あふの川のさしめし

三 葛  
負 雄  
一 耕  
菅 丸  
其 地  
梅 温 尼  
露 園  
批 仙  
静 兩  
志 文  
字 石  
涼 湖

盆の月

下すの吹流もさかすか盆の月  
起されて見えぬ盆の月  
盆の月の内を交りて  
盆の月の内を交りて  
盆の月の内を交りて  
盆の月の内を交りて  
盆の月の内を交りて  
盆の月の内を交りて  
盆の月の内を交りて  
盆の月の内を交りて

春鴻  
長翠  
三千彦  
全  
全  
全  
葵童  
可部里  
岳輅  
一具  
荷乙  
浅香女

魂迎

魂奠

夜もあつても大さな盆の月  
盆の月を越さぬ魂  
盆の月の下を  
盆の月の下を  
盆の月の下を  
盆の月の下を  
盆の月の下を  
盆の月の下を  
盆の月の下を  
盆の月の下を

露園  
子悲岐  
孤村  
林霞  
李城  
一朗  
松月  
志徳  
白雄  
全  
八朗  
白雄

旅りやうき人の母のふまふま  
 子の戸やふちをける魂ちりり  
 うき林の魂まつるやまきうる  
 魂まけし葉も葉はを死に  
 中いんそくも死るやうたふりり  
 遠くのせまうらやもはる  
 建舟のあそぬ世はや魂まつり  
 うき合戸整ふと出まうらうき  
 うきうきうきに都もいんり魂ま  
 うきうきうきまもね親もや魂ま  
 魂まねねの魂まもも向うら  
 ももはつらあもも死まのうら

青蘿 長翠 三彦 重厚 成美 武陵 護物 茶静 全 梅今 易足 可厚

新盒 魂棚

ちんちんもおくれらうし魂ま  
 せうせうらうら向まうらやた  
 積まも積のあもれを新盒  
 よらうらうきあもも新盒  
 うきうきうきやうきを捨る積の上  
 魂棚の親もせりり捨る  
 たう魂まけしうらうきと肉痛  
 魂まももあももあもも捨る  
 うきうきうきやうきまももあもも  
 魂棚のまももあももあもも  
 たう魂まけしうらうきと肉痛  
 魂棚や好や酒もとられ

蓬国 確嶺 三彦 確嶺 鳥醉 几董 三彦 全 泉兆 鳳朗 護物 鳳石



墓參

魂杵や人の身あり 杖立つうた  
くまき墓へ詣りてさうも春の如來  
大家をさうちゆきまを墓まのり  
張りた人おみされく 墓まま  
おくまをさうてりやけさあり  
乃連も中さありぬ ままあり  
られらふにさあり墓まあり  
娘さうら 迎をばり 墓まあり  
ふさうの成りまもさありはるあり  
船のさありまありし墓まあり  
市陣もさありまありし迎はあり  
右首西やけりまありまありし陸

迎鐘

好兩  
三千彦  
葛三  
一草  
魯恭  
子悲  
享石  
桐居  
介二  
碓嶺  
三十彦  
全

燈籠

ちとて靈のいさこよやのさうい陸  
舟の外道さうた家やしひひ  
さう陸まこさうあものを迎ひ  
中庭のさうさう迎燈籠あり  
燈籠やさうのさうさうあり  
新燈籠棹の果も物のさうさうあり  
さうさうの沖あり 板あり  
さうさうのさうさうあり 燈籠あり  
さうさうの極楽さうさうあり  
のさうさうの燈籠さうさうあり  
次山さうさうのさうさうあり  
燈籠あり

保吉  
茶静  
碓嶺  
白雄  
長翠  
春鴻  
士朗  
應々  
茶静  
史千  
八朗  
連志

切籠

高燈籠

舟燈籠

迎火

川風のうらやまのさしあけの燈籠は  
人のかげのさしあけの燈籠は  
高き高き燈籠のさしあけの燈籠は  
舟燈籠のさしあけの燈籠は  
迎火のさしあけの燈籠は

乙人 嵐齋 静雨 文玉 良梁 蕪村 白雄 成美 蘆生 葛三 其兆 鳥醉

送火

柵經

送火のさしあけの燈籠は  
柵經のさしあけの燈籠は  
舟燈籠のさしあけの燈籠は  
迎火のさしあけの燈籠は

白雄 三彦 梅室 蕉雨 荷乙 蕪村 三彦 鹿太 史千 志丈 茶静 良梁

施餓鬼

七夕のよきつをきく施餓鬼舟  
舟の施餓鬼あまの清い物まかり  
りや風をふせくや生身魂  
あまのよきつをきく生身魂

三平彦

生身魂

刺鰯

さし刺しきりりや安きと契りか  
刺鰯や鰯をけおろそきうを素  
けし鰯や鰯をけおろそきうを素

蘭更

蓮の飯

蓮の飯の清いやまをきく蓮の飯  
蓮の飯の清いやまをきく蓮の飯  
蓮の飯の清いやまをきく蓮の飯

白雄

摂待

摂待の清いやまをきく蓮の飯  
摂待の清いやまをきく蓮の飯

蕪村

草市

接竹やあまの舟よりあまの  
草の葉もまきく秋もまかりか  
草市をわけるや庵もあまの  
山や竹枝をうりてまきくあまの  
草市もあまの舟よりあまの  
あまの舟よりあまの舟よりあまの  
草市もあまの舟よりあまの  
あまの舟よりあまの舟よりあまの

長翠

葛三

全

應々

荷乙

涼湖

葛三

鳳石

曉臺

且々

枕仙

鼠尾草

鼠尾草の清いやまをきく蓮の飯  
鼠尾草の清いやまをきく蓮の飯

麻壳

麻壳の清いやまをきく蓮の飯  
麻壳の清いやまをきく蓮の飯

盆

氣尾もふまのあつらふり月  
多のねや同くは鏡の氣法  
月影やみまもくわきまも  
花又も娘もきき方やおくり  
是やはも供も何れ都も  
を代は布一羽某土產を  
古今もききりやわい  
まきさの星海山も思ひ  
白のねや勝子のね又も  
法も入やまも人あま  
つらりや二宮もま  
心も人あまも

麓水  
長翠  
全  
全  
三平彦  
希言  
赤蓼  
蓼歌  
蕪村  
素因  
蕪村

法と入

踊

木曾踊

又ぬあや踊も折門り  
ねりねをよけくを  
まももまやれ小人  
あつらふも人い踊り  
踊らぬもねり  
まももまやれ小人  
よれ月もまも  
まももまやれ小人  
まももまやれ小人  
まももまやれ小人  
まももまやれ小人  
まももまやれ小人

三平彦  
梅室  
多代女  
茶静  
友聖  
茂什  
聞鳥  
春嶺  
碓嶺  
雨秀  
儿明  
ト早

露

林のうらみかゝるはらに里のうらみなり  
竹まきのゆくはらにありて丘の露  
をまきの初をてんりて流れていれ  
いれおらにわらうや喉ぬまの玉  
流まきをかゝるはらに林や松のうら  
夕の露やつらつらとこぼるはらの下  
茅葺のうらみかゝるはらにありて  
庵や只まきのうらみの物にまき  
舟引のうらみかゝるはらにありて  
とくくくのうらみかゝるはらにありて  
かかふくやわらうやまきのうらみ  
しるるのうらみかゝるはらにありて

長翠  
全  
三平多  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
全  
葛三  
全

露のうらみのにけりてはらにありて  
かかふくやわらうやまきのうらみ  
しるるのうらみかゝるはらにありて  
かかふくやわらうやまきのうらみ  
しるるのうらみかゝるはらにありて  
かかふくやわらうやまきのうらみ  
しるるのうらみかゝるはらにありて  
かかふくやわらうやまきのうらみ  
しるるのうらみかゝるはらにありて  
かかふくやわらうやまきのうらみ  
しるるのうらみかゝるはらにありて

葛三  
全  
全  
成美  
全  
全  
乙二  
樗堂  
素郷  
木木  
木葉  
荷乙

高にくとてし 未雨うを 子のと  
 高きや見はめを 高きいこく 松  
 神のあけくくひくひく 一叔くれ  
 舟のつけのくくくく 一叔くれ  
 行きの舟のきききき 一叔くれ  
 是の道やあふめめめ 一叔くれ  
 舟は申すはけしてはまうく 山流  
 寄の寄寄して 麻よ入 端居くれ  
 行くとて田くくくく 一叔くれ  
 今州と紫と色と 寄は申すくれ  
 山へのくくくく 寄は申すくれ  
 月くくく 寄は申すくれ

斗慈  
 流芝  
 子越岐  
 素霍  
 茶裡  
 南楚  
 一夢  
 尾村  
 芭九  
 閑窓  
 梅山  
 蓬國

白露や 茨の針よ 穿くは けく  
 糸のやまを 赤糸は 了 針の上  
 志る者や うらぐき ねと ありしやう  
 寄くあを 志るや 赤く 志るは 赤  
 赤よ 赤のよ 赤のや 更へ 赤の赤  
 赤の赤や 入りし 赤の 赤の赤  
 針の赤の赤 一赤の 赤の赤  
 うらぐきの 赤の 赤の 赤の赤  
 赤くと 赤の 赤の 赤の赤  
 赤の赤の 赤の 赤の 赤の赤  
 赤の赤の 赤の 赤の 赤の赤  
 赤の赤の 赤の 赤の 赤の赤

蕪村  
 蝶夢  
 關更  
 吐月  
 藻鏡  
 龜成  
 其三  
 松竹  
 東清  
 公成  
 素屋  
 李朗

庭ちよや朝のあらのち知世なり  
 吹簾や世に世にまじりて一葉あり  
 窓の書字もまじりてまじりて居られ  
 窓のまやちしとまじりて朝あら  
 暮のまじりて世帯のうらやあま  
 ちまや世にまじりて朝のま  
 窓のまじりて世帯のまじりて朝  
 まのまじりてまじりて朝のま  
 窓のまや 柱よりまじりて朝のま  
 庭のまよまじりてまじりて朝のま  
 何よりまじりてまじりて朝のま  
 ひと何よりまじりてまじりて朝のま

乙二  
 為山  
 加侍良  
 梅笠  
 香芸  
 祖風  
 萬古  
 麥鳥  
 祖卿  
 河亭  
 佛胡  
 五具

桐一葉

家明のいりてまじりて朝のま  
 庭の中へまじりて入るり朝の一葉  
 相のまじりてまじりて朝のま  
 まのまじりてまじりて朝のま  
 月のまじりてまじりて朝のま  
 相のまじりてまじりて朝のま  
 相のまじりてまじりて朝のま  
 風の目をまじりてまじりて朝のま  
 昔のまじりてまじりて朝のま  
 何れもまじりてまじりて朝のま  
 相のまじりてまじりて朝のま

丁知  
 士朗  
 蒼虬  
 潮堂  
 布山  
 由誓  
 得蕪  
 木齋  
 松隣  
 首磨  
 雨弓  
 卜早

八月をのまゝに相りけり葉は  
 若きやしと葉よりの字にその  
 老の明は去らうと一葉うめ  
 手拈や一葉おとく風のすま  
 と秋とありふ葉先を相りて  
 是くけの中の一葉や相りて  
 海より遊しを拈ふしとて  
 拈りてをさしし中を然るぬ  
 ぬきりやと見しとて相りて  
 相一葉叶ハもよゆとて  
 相苗をえまゝに相り一葉うめ  
 知り一葉門叶うせと知り

其三  
 かほ  
 御風  
 淡史  
 洪山  
 梅通  
 組郷  
 龜成  
 藻鏡  
 巳有  
 香文  
 赤南

柳散

黄くさのまゝに相りて葉は  
 さしりさのまゝに相りて葉は  
 ちるりやあぬとてやまゝ一葉  
 思ひかきやとて相りて葉は  
 拈りてをさしし中を然るぬ  
 風のまゝに相りて葉は  
 柳見よと愛あるものちりて葉は  
 月よと相りていりて葉は  
 柳をさしりて相りて葉は  
 さのうとていりて相りて葉は  
 東山をさしりて相りて葉は  
 赤南をさしりて相りて葉は

桃仙  
 清湖  
 史弄  
 菊泉  
 方舟  
 全  
 長翠  
 尾全  
 可月  
 旭山  
 東阜  
 李尺



木犀

ちりまふり草ふけりやちりまふ  
 ちりまふり草ふけりある柳の  
 木犀をいづくか林の白ひくめ  
 木犀や寺の朝風遠く木犀  
 木犀の白ひくめふく散りて  
 木犀のまふり草ふけり白ひくめ  
 暮れ癒のおちり内々くれ  
 ぬくぬや何ふり草ふけり  
 あるこひり雨り朝のこひり  
 暮れ癒をいづくか林の白ひくめ  
 朝風をいづくか林の白ひくめ

好 兩  
 犀 二  
 涼 湖  
 有 木  
 一 朗  
 尾 村  
 白 雄  
 蝶 夢  
 春 鴻  
 長 翠  
 全  
 三千彦

朝顔

けいげんやと越の妹とよりまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり  
 朝顔のたぐやまきり

全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全  
 三千彦

朝うかや休ききけり戸もなきは  
 あさあさしつ甲さくろく人とも  
 兼や餘香燃る庭くもすり  
 朝顔やとねたつてはつるん  
 あさう海をくねたつてはつるん  
 朝顔乃ハ有る候くねたつてはつるん  
 兼一の遠山を丹さ記あけり  
 あさあさの朝くも候けり兼り  
 朝う休やとつてはつるん  
 朝顔のむすも香のくも候り  
 兼やあけり朝ておとくは候  
 朝うあやまきのふ候る能業礼

三平彦  
 可都里  
 成美  
 兼兆  
 葛三  
 升六  
 泉居  
 五明  
 護物  
 由誓  
 萬籟  
 多代女

十ねる朝顔すけ候りけり  
 朝う休やとつてはつるん  
 朝顔あけり朝ておとくは候  
 あさう海をくねたつてはつるん  
 朝顔乃ハ有る候くねたつてはつるん  
 あさあさの朝くも候けり兼り  
 朝う休やとつてはつるん  
 朝顔のむすも香のくも候り  
 兼やあけり朝ておとくは候  
 朝うあやまきのふ候る能業礼

茶静  
 全  
 乙人  
 孔正  
 北亭  
 ちん  
 子遊  
 露園  
 兼秋  
 彌天  
 碓月女  
 祖郷



白木槿

おのれをてあそぶれめさある木槿小  
夕照の常をせりあうく木槿小  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の

梅室  
斗筵  
易足  
兩紅女  
有木  
梅野  
素行  
挹芝  
舞千  
女雪  
方舟  
三平彦

女郎花

おのれをてあそぶれめさある木槿小  
夕照の常をせりあうく木槿小  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の  
おのれをて木槿の咲く伏屋の

半月  
大江丸  
長翠  
全  
三平彦  
全  
可都里  
萬三  
全  
成美

たのしみは地根むきひて女も  
山治もて平なまをうらまへし  
かへてもさへ折るをこそあはれ  
女もさへてはまはれもさへめ  
さへてさへてはまはれもさへめ  
余のさへもさへてはまはれも  
夕にさへや欲もさへてはまはれ  
ちりさへはさへてはまはれ  
けりさへもさへてはまはれ  
似さへもさへてはまはれ  
秋風のさへもさへてはまはれ  
雨にさへや風のさへもさへてはまはれ

粟兆  
蕉雨  
鳳朗  
雉啄  
茶靜  
朝陽  
依瓜  
一耕  
花紅女  
梅窓  
玉子  
里川

男郎花

蘭

桔梗

春むやうと咲やうもさへて女も  
何やらさへもさへてはまはれ  
花もさへもさへてはまはれ  
あへてさへもさへてはまはれ  
さへもさへもさへてはまはれ  
らめさへもさへてはまはれ  
空もさへもさへてはまはれ  
田のさへもさへてはまはれ  
さへもさへもさへてはまはれ  
活もさへもさへてはまはれ

良梁  
伯丈  
交甫  
白雄  
月居  
鳥頂  
有木  
鳳石  
三千彦  
全  
全  
武  
山翠

菖

刈あはれわつる花咲松枝うね  
野のよもぎ折るさきさきや  
一昨のあまきの中さきあめ松枝さく  
思ふよもぎさきあめ松枝さく  
赤くさきさきあめ松枝のさきさき  
株のさきさきさき松枝さ  
庭へさきさきさき松枝さ  
あきさきさき人のあきさき松枝さ  
さきさきさきさき松枝さ  
さきさきさきさき松枝さ  
さきさきさきさき松枝さ  
さきさきさきさき松枝さ  
さきさきさきさき松枝さ  
さきさきさきさき松枝さ

卓池  
林曹  
志文  
松兩  
松葉女  
茂什  
東阜  
全  
志徳  
以吉  
三千彦

袖あらくむもやまき  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ  
あきさきさきさき松枝さ

三千彦  
全  
巢兆  
希言  
少汝  
嵐外  
大梅  
斗筵  
禾木  
抱儀  
孤村  
静兩

山崎あめりりくわあり萩のか  
か原あやまそのまうにたれたる萩  
萩さくやまをさくさくあまのきさく  
萩さくやまをさくさくあまのきさく  
萩さくやまをさくさくあまのきさく  
萩さくやまをさくさくあまのきさく  
萩さくやまをさくさくあまのきさく  
萩さくやまをさくさくあまのきさく  
萩さくやまをさくさくあまのきさく  
萩さくやまをさくさくあまのきさく

字石 至丈 儿明 其兆 一鬼 祖郷 一阜 聞鳥 帰南 彌天 百丈 千秋女

白萩

山萩

川原萩

萩

白萩のさくさくあまのきさく  
山萩のさくさくあまのきさく  
川原萩のさくさくあまのきさく  
萩のさくさくあまのきさく  
萩のさくさくあまのきさく  
萩のさくさくあまのきさく  
萩のさくさくあまのきさく  
萩のさくさくあまのきさく  
萩のさくさくあまのきさく  
萩のさくさくあまのきさく

月 凉窓 葛三 雨塘 左之 確嶺 有木 儿董 三千彦 全 毛全

鶏頭花

竹の葉は紅くけね花の香  
 竹の葉はまのふとふも林の香  
 庭中や母の柱の香  
 ありとやまのい花の香  
 約半をこける庵や鶏頭花  
 鶏頭花の香の香の香  
 鶏頭花の香の香の香  
 けりあるもの香の香  
 けりあるもの香の香  
 けりあるもの香の香

茶静  
 成美  
 五明  
 玄蛙  
 一蕙  
 荷し  
 文玉  
 有木  
 東阜  
 其兆  
 椿洲  
 有臺

葉鶏頭

葛

新也やむの香の香  
 ちんちんの香の香  
 鶏頭花の香の香  
 ふらふら花の香の香  
 伸くして香の香  
 竹の葉の香の香  
 夕やの香の香  
 葛の香の香  
 葛の香の香  
 葛の香の香  
 葛の香の香  
 葛の香の香

可月  
 涼湖  
 素因  
 伯夫  
 左梁  
 左のあ  
 三千彦  
 葛三  
 全  
 巢兆  
 涼湖  
 有臺



秋海棠

あちちと花もさるや鳥のそ  
とささみしきささるる花  
秋海棠林七葉五葉とこれ  
秋海棠もさるや佛のさるや  
飯初ゆゆのさるや秋海棠  
ささるやささるや秋海棠  
古きやささるや秋海棠  
秋海棠のささるや秋海棠  
秋海棠のささるや秋海棠  
秋海棠のささるや秋海棠

彌天  
如洋  
三千彦  
葛三  
良梁  
白雄  
長翠  
全  
三千彦  
護物  
藤水  
蔘歌

芙蓉

紫苑

花野

紫苑ささるや月もさるや  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠  
秋海棠ささるや秋海棠

三十彦  
全  
應々  
幸雄  
桃史  
佳風  
重厚  
兩塘  
龜丈  
寥松  
來艮  
素撰

川萱

あはれこゝろを流るる心を花笠うぬ  
川萱のわくをよきや酒乃下  
つらきやれはとて夢のほいほい  
川萱や山ともはるぬ蘇くくら

五山

三千彦

蒼乳

芥翠

夢の咲

亡ハ花のしむきうしあのみこく  
すのなて一里ほやまのこ咲  
かくれおも像まを咲くまをみか

確嶺

以吉

夢の花

新く夢の夕まうらまう夢のま  
夢さくや道より休まの庵のあ  
なを夢の夢つらうやなや乃花

連志

長庄

夢の穂

夢の穂やるのあはれはく産り夢  
年くあふえるる直や松夢生ふ

佳風

夢歌

犬夢

犬夢も林をささけ一垣松うぬ  
いぬ夢も月をささけ小庭か

鼎湖

素好

鳳仙花

咲もさうし音も絶ゆる風仙花  
草のうやまは揚子江の鳳仙花  
尾さの物ゆりしや舟の舟を

玉芝

如交

桃仙

芭蕉

破芭蕉ころは秋物くまを  
おきさう日あさひそめ芭蕉  
わくさのたうてあはれを成るれ

白雄

長翠

北亭

清湖

積翠

長庄

千古

芭蕉のや破りてこの年あま  
程もさうし音も絶ゆる風仙花  
花を葉のうけもあまのまを成るれ  
とを成るれや風のくまを成るれ

水引草

破れぬ八月のうけもさきも甚か  
あ引のしきさきめりて坊々危  
秋もあふる引草の咲くうけり  
あ引や咲くもさきもさきり時  
あ引のせや水引そのあきも度き  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし

曙山  
雀叟  
斗筵  
芥翠  
伯丈  
三千彦  
葛三  
巢兆  
護物  
碓嶺  
長翠

藤袴

稲の花

あきもさきもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし  
あ引のうけもさきもさきりし

葛三  
寥松  
雉啄  
佳風  
如洋  
其逸  
祖郷  
此君  
舞午  
萩守  
涼湖

粟

葡萄

藜

黍

蜀黍

粟如小石を付やら山乃 粟  
りも余程せりく其や粟の  
粟の穂や夕暮るこぬ利根の波  
粟の穂中時ふ力も其一一き  
涇泉度りも後をぬきぬとく  
勇ふくくはのまは水のふとく  
有くけのぬゆらり紅あさき  
るくはあまのまわる藜この  
新くも休るあさきとくもあ  
世並あしとと黍穂やあ 所  
黍の穂やるもこのいそ風の吹  
蜀黍の穂やるもこのいそ風の吹

三千彦  
全  
嵐奇  
鳳石  
九扑  
有木  
きよあ  
蓼歌  
以吉  
三千彦  
碓嶺  
丈左

鴨頭花

西瓜

冬瓜

糸瓜

瓢

蜀黍を隣より月のまらめり  
けゆきや川もたきこやの細  
鴨頭花や向くあたる新くも  
用くは西瓜もこのいそ風の吹  
凡そあまのれととくは西瓜  
竹枝せりここのいそ風の吹  
冬瓜や穂もきくくも早の中  
ここのいそ風の吹と糸瓜を  
不きれて笑つれとせぬ糸瓜  
ゆきくも物おるせり中程  
それよりあてまはれや新くも  
あまのれととくは西瓜

五十二  
静兩  
千うせ  
三千彦  
栄李  
三千彦  
涼湖  
兩塘  
可布  
葛三  
伯夫  
全

蓮の實飛

實のこぼれて 虚より音あたる 瓢うね  
蓮のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと  
蓮のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと  
蓮のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと

有菴

長翠

良梁

以吉

若菜

若菜のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと  
蓮のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと

大江丸

寥松

伯丈

謙々

秋草

秋草のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと  
蓮のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと

三千彦

長翠

寥松

草花

草花のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと  
蓮のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと

虫

近きハ格 虫のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと  
蓮のこぼれや 花夏をむかひ先々  
さきの実のこぼれ 飛ぬ枕もと

嘯月

茂什

清湖

川帶

長翠

全

全

三千彦

全

抱義

静雨

雨紅女



蟾蜍

ゆくゆく鳴るとも居るもいなり  
の聲もまうて林を風ふらふやゆい  
蟾蜍乃とより一而入 ありまうり  
うまきりのめいりもおう 暮るのあ  
蟾蜍や水水しむる友 寺乃色  
このむしとて葉山の持てまうり  
著書や人しくて世をこめ 蟾蜍  
蟾蜍もまうりまうりて 仕舞うり  
この波やも流るる風の葉もまうり  
ふれまうり葉もまうり風の飛ぶ  
蟾蜍のむしとのまうりまうり 月夜水  
るまうりまうりまうりまうり 蟾蜍

關更 伯夫 長翠 荷乙 翠蓋 重厚 長翠 三年疾 白雄 蘭更 護物 全

菱虫鳴

藻虫鳴

蛭刺鳴

松虫

鈴虫

響虫

君つ代をまうりまうりや 蛭刺鳴  
風のまうりまうりまうりまうり  
まうりまうりまうりまうり 風のあ  
松虫や木をまうりまうりまうり  
はははまうりまうりまうり 松乃月  
鈴虫のつとまうりまうりまうり 風ふく  
まうりまうりまうりまうり 風のゆれ  
鈴虫のやまうりまうりまうり 月乃林  
二句一聯  
おむしとてまうりまうりまうり 月乃林  
鈴虫のつとまうりまうりまうり 風ふく  
まうりまうりまうりまうり 風のゆれ  
鈴虫のやまうりまうりまうり 月乃林

一瓢 連志 長翠 葛三 素好 三千彦 伯夫 確嶺 全 三千彦 確嶺

蟬

神乃灯方とる武彦や響むり  
露丹や蟬こるる風もより  
霞の空秋も鳴や燈り正し  
蟬と方遠ひまや燈り正し  
霞乃鳴かそめさるけし  
灯もせ八蟬のちるる秋うぬ  
林のやもる小きくちりしる  
桂也ささるるぬ林の螢これ  
草のやとささるるる若草か  
秋乃蚊のちるぬ蚊もあり永代さ  
あまの蚊も衣と古き在んか  
はる蚊や蚊もささるらん

良梁 白雄 三千彦 全 五明 花明 菊泉 玉芝 雨塘 薰水 綾國 鳳朗

秋の螢

秋の蚊

残る蚊

秋の蠅

秋の蚊やわらわら其を掃耳めらく  
人去てるそのくをあきき力電  
物りともさるる衣と古き在んか  
秋のせらみさるる月日を鳴きさる  
おきき木々々々も鳴きし林の探  
あきき乃蟬もささるる木この衣と  
あや草や林内もささるる衣と  
うこれる風もささるる衣と  
あまの人を掃やあまの衣とささ  
あまの衣とささるる衣とささるる  
あまの衣とささるる衣とささるる  
あまの衣とささるる衣とささるる

みりせ 申齋 以吉 樗良 易足 清湖 三千彦 きよあ 玉芝 春雪 北亭 蝶夢

蝗

蝸

ひるるやささるるささるる乃松

蝶夢





二百十日

吟突乃、忍ふ影せわを羽田哉  
人あつり十のも荒れし日 蕨  
君う代や二百十日の物志也  
ゆる自陣や二百十日のねあ入  
二百十日の相のこけりてうら  
とあつりあ品もつるるはきゆ  
ねうねや遠来をうけつるあ  
身のねと思へばりしうか  
一ちあつりあ品もつるるはきゆ  
信の月もあけさせよふれつる  
暖生を吹つてこころやつる  
返くぬやる乃言きつる子端

碓嶺

三千彦

蓼太

貞雄

伯丈

碓嶺

荷乙

伯丈

大江丸

長翠

三千彦

全

鳥驚

鳴子

鳴子引あま向ひや荒屋を  
あまう色ハ鳴子うなるは 諸乃布  
聖をあまや鳴子を成けハ大の  
あつりこ成松の丸を色もつる  
飯芭を投こむあ乃鳴子小  
まもあつりるあつりこのうね  
山伏の引控りてりまあころ  
葉利一あつりあつりあつり  
案乃くや余あつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつり

三千彦

葛三

全

希言

乙古

南楚

佳風

千景

茶徑

柳致

有臺

茂什

引板

添水

鳴芋

とく成てくもよくさる鳴芋小  
旅人よおこされり成をうこ哉  
あつらふや引板のあつらふる乃御  
引板成を母於人よもなうりけり  
先角一へうしるも成り山の引板  
はゆをこまゆえりてをり引板の言  
おろしるを添水のうけや人乃と  
志ししこの中も成り添るる成  
鳴芋や引板の月乃成あつら  
鳴芋やおろしるあつら乃栗  
鳴芋や引板のあつら成り成り  
鳴芋やおろしるあつら成り成り

桐居 梅野 尺艾 佳風 阿兮 桃仙 白雄 梅令 長翠 全 桃史 伯史

茶山子

日月やうりの影乃あつらるる  
人の世や茶山子よ家のユミをさ  
新産やのふりてをさるる  
とて初るのしるも成り成り成り  
うさ家の恒成りもあつらるる  
身乃考やうりのあつらるる  
映控のあつらるる茶山子小  
とよ成り人らうりてをさるる  
東山子のあつらるる人乃成り日小  
立成りうりて成り成り成り  
むつら成り不月乃成り成り成り  
新産もてうりて成り成り成り

長翠 全 三千彦 全 葛三 一茶 全 梅室 嘯月 全 田

扱つるなりみぬしきうくく  
 ちりみおひひ月うくく  
 人志ゆふくくくをふやれまふ  
 山出しのきり冷るや約うく  
 秋のやけと形みあきく約奈山子  
 むあてて田面をくくく龍うく  
 人も形く不月ふをくくく水  
 伝ふくく珍るくく水くくく  
 ちりみあ今終ハまきくくく  
 人志ゆふくくくくくくく  
 日のけり乃まふ入ありあきく水  
 月あやみくくくくくくく

謙々  
 卜陸  
 夢歌  
 蕉雨  
 以吉  
 蝶夢  
 一具  
 一飄  
 梅令  
 茂什  
 方舟  
 谷菴

釣物し  
落水

あり水秋のちうくくくく  
 おくくくくくくくくく  
 白若中やまきくくくく  
 あり水あきくくくく  
 書や子くくくくく  
 御射山祭 我も森ん日さくくく  
 穂登のき刈日も風り吹ふけを  
 ちりみあきくくくく  
 ちりみあきくくくく  
 八月 八月や月もくくく  
 八月や月もくくく  
 八月や月もくくく

本聖  
 文聖  
 魚丸  
 全嶺  
 三平彦  
 確嶺  
 静嶺  
 確嶺  
 三平彦  
 嵐外  
 朱五

葉月

八月や月のるふむ人遊り  
八月も蕪敷の多き伏屋  
日ハ西よちりて舟中後自  
あゝ先へ武士着の通る  
何となく目暮をゆく  
西東よく歌ふゆき  
ハ朝や美次く申辰の踊  
ハさく乃のうしはくも  
ハ朝の産もくやせや瓢  
ハさくや袴もきく物  
ハ朝や松乃位の下ゆ

百標  
斗筵  
涼湖  
志文  
有木  
左  
長翠  
三千彦  
全  
全  
全  
昔三  
全

八朔

田面の日

ハ朝や秋向のうき月  
ハ朝や山より乃乃夕  
ハさくや梅のうき  
ハ朝や朝のうき  
鷹のうき  
玉川のうき  
葉のうき  
牛乃のうき  
垣結てのうき  
庭のうき  
庭のうき  
庭のうき

子也成  
佳風  
方舟  
左  
白雄  
葛三  
素好  
長翠  
素好  
茶静  
多代女  
梅令

竹の春

扇置

捨團扇

持安くあつしとまゝつてあはさきや  
帯解けハ落さるゝ林乃にやれりれ  
早のわ林とたけりけや扇おく  
あはさおくとまゝ障のゆもつらわ  
心はてさむしき思ふり於扇扇  
指乃にやとて思ふし捨ちち  
林葉ふく木さく身入りむるもひか  
身入り物やよせるとも波乃言  
やとて思ふし林の苗葉涼月入  
えく板のさ葉のそりや言ささ  
年毎あそやと思てとて思ふし  
とて思ふやとて思ふのるも窟 郊

孚石  
波丈  
里川  
素好  
良梁  
左ふ  
升六  
采李  
保吉  
一志  
儿明  
雨紅女

身入り

漸寒

とそ寒

秋寒

朝寒

林葉ふく木さく身入りむるもひか  
身入り物やよせるとも波乃言  
やとて思ふし林の苗葉涼月入  
えく板のさ葉のそりや言ささ  
年毎あそやと思てとて思ふし  
とて思ふやとて思ふのるも窟 郊  
林葉ふく木さく身入りむるもひか  
身入り物やよせるとも波乃言  
やとて思ふし林の苗葉涼月入  
えく板のさ葉のそりや言ささ  
年毎あそやと思てとて思ふし  
とて思ふやとて思ふのるも窟 郊  
林葉ふく木さく身入りむるもひか  
身入り物やよせるとも波乃言  
やとて思ふし林の苗葉涼月入  
えく板のさ葉のそりや言ささ  
年毎あそやと思てとて思ふし  
とて思ふやとて思ふのるも窟 郊  
林葉ふく木さく身入りむるもひか  
身入り物やよせるとも波乃言  
やとて思ふし林の苗葉涼月入  
えく板のさ葉のそりや言ささ  
年毎あそやと思てとて思ふし  
とて思ふやとて思ふのるも窟 郊

蝶夢  
曰人  
三千彦  
大江丸  
卓池  
京 蟻兄  
葛古  
文玉  
素好  
長翠  
三千彦  
一茶

夜寒

ちりちり小柳子ぬけさう秋空か  
 月の白りあつたあつた夜乃秋空か  
 小観よ石柳あてし秋空か  
 起されて候りし月なる夜空か  
 老をさうそ老のわかれ秋空か  
 亦り灯のこゑをわかれ秋空か  
 しんじんと身もたれく夜の夜空か  
 我もあつたよとよとよと秋空か  
 二の巻に秋空か  
 夢をさり候りし秋空か  
 めいぬのさつとよとよと秋空か  
 年々とよとよとよと秋空か

涼湖 全 洞天 自雄 一桃 佳風 与珠 蓬國 梅史 有木 田明 彌天

秋夜

灯の光りよけよけ秋空か  
 江の声も風の音も秋空か  
 雨の音も消えさうと秋空か  
 形を引つけて候りし秋空か  
 旅をさうそ秋空か  
 玉味もさうと秋空か  
 山氷の音も秋空か  
 應ねあつた秋空か  
 秋の夜や候りし秋空か  
 あつた秋空か  
 候の夜や起つて候りし秋空か  
 秋の夜や下戸も秋空か

林霞 清湖 嘯月 老雀 只石 ト蛙 涼窓 文熊 白雄 重厚 素郷 全

長き夜

長き夜の夜乃おもひくゆき燈るぬ  
燈る夜や信るすむるおのう家  
林の夜や枕を静か〜升落〜  
あさ乃夜の汐を押さるる水も  
拿すみ嵐乃信す〜も夜か  
ぬ〜ふの〜まゆを〜満るも夜か  
長き夜や一夜ふ〜夜を〜めつ〜  
なる〜夜を〜あて〜人の影森々  
とり〜ぬぬ〜も〜夜を〜め  
なる〜なる〜夜ふ〜あ〜草〜  
も〜夜や〜影の〜あ〜の〜いつ〜  
粉白〜ゆ〜ぬ〜も〜ま〜ぬ〜

春 曦  
希 言  
申 齊  
花 江  
白 雄  
長 翠  
曰 人  
武 曰  
千 古  
苜 丸  
曙 山  
嘯 月

二日月

三日月

二日月の月あ〜〜何〜もの〜二日月  
三日月の波乃あ〜ゆ〜あ〜ゆ〜  
三日月の〜も〜あ〜あ〜の〜田川  
み〜ゆ〜や〜織屋の内〜客を待  
三日月や札を〜を〜病〜上〜  
〜風〜乃〜滑〜中〜ゆ〜二日月  
三日月や先〜木林の聖〜菜〜物  
〜ゆ〜ゆ〜や〜下地〜け〜あ〜の〜あ  
三日月とお〜夕や峰〜乃〜松  
あ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜  
夕月や録書の火乃〜ま〜ゆ〜  
夕月よたの〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

士 朗  
羅 城  
三 彦  
全  
葛 三  
卓 池  
一 肖  
夙 也  
緑 川  
五 栗  
長 翠  
清 湖



宵月

待宵

宿居色はむらじり嬉しや宵の夜  
 宵月や只さやけなき人乃中  
 待しむやむらじり志なき草屋登  
 まつ宵をさるるの月乃かこし  
 まつ宵や葉内画み去能乃石  
 待しむらるるや祈禱のきく心  
 待し宵やおのう酒くむ白拍子  
 まつ宵やあやむむふの思懐さ  
 待しむら月こころあまの月松丸  
 待し宵乃月やかきけてぬみささ  
 待しむらや白木権乃砂る垣  
 まつ宵や一おめせまら林の空

士朗  
 梅令  
 白雄  
 長翠  
 全  
 三千彦  
 全  
 葛三  
 梅室  
 由誓  
 護物  
 茶静

小望月

名月

待し宵やまのまらむらじりさのさ  
 長月乃月待しむら乃中  
 待し宵や掃除掃りて庭あり  
 まつ宵や戸さふおもま乃中  
 待し宵の庭を志りりなき月松丸  
 まつ宵はむら流るるささ教あて  
 待し宵をま居の物た夜しりり  
 まつ宵やむら苦みて居る時  
 待し宵やおふらささた樹くの空  
 小望月やまらむらじり小望月  
 待し宵はむらむらむら小望月  
 名月や人まらむらじり月

三千国  
 舞泉  
 完明  
 文河  
 領西  
 孔正  
 千隣  
 文雄  
 蘭中  
 伯走  
 百明

名月や浅き水にのびる家  
名月や牛乳の峰乃松  
名月や僧のまきあひの鬼ありき  
名月やむらさきに花乃山  
名月や先かきとむ花乃山  
名月やあまのついで花乃山  
名月や海のみあやも浪花乃  
名月や堀の小いりき花乃山  
名月やむらさき折て花乃山  
名月や文の戸のぬく花乃山  
名月や人なき室の字乃山  
名月やあけの空乃山

春鴻  
蓼太  
長翠  
全  
三千彦  
全  
全  
全  
全  
全  
萬三  
全  
全

名月やこゝろの暮の中乃庵  
名月を大なるあやの松の風  
名月や子ののせし夜を遠く  
名月や冷しけしと木乃庵  
名月やまききききの白ひ乃  
名月や朝の霧の注乃庵  
名月やあまの仕草乃庵  
名月やこゝろの霧のあま乃  
名月のゆきとあま乃庵  
名月やあまの霧乃庵  
名月やあまの霧乃庵  
名月やあまの霧乃庵

葛三  
成美  
全  
巢兆  
乙二  
椿堂  
鳳朗  
一蕙  
沙鷗  
而右  
一葉  
可布

名月や挿除のときく春の草  
 名月や清代とも不ま白の糸  
 名月や清のあつたさうし  
 名月やせめをた母の思  
 名月や松よきさきさき  
 名月やふももあし  
 名月やあまさきぬ海乃と  
 名月やあまの清水お  
 名月や一枝かたは  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき

孤村 叢 啄秋 蛙堂 英文 其兆 葛守 孔明 好雨 舞千 謙々

今日の月

名月や松の木の首の長さうぬ  
 名月や草の庵のくさむし  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき

名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき  
 名月やあつたさきさき

十人うららるるむらりをけふの月  
 目出さしと月もおるさうさふり  
 君う代やもろこころ原もろろの月  
 ちかあふふのこころもろくはやくふり  
 我もろく林もろく茶んけふの月  
 けふの月只あて只わさせー  
 山もろく買てささるやふり  
 そりの月こけある物もろくある  
 人ろく山もろくあふりさうの月  
 聖のねも木のるもろくさふの月  
 いさふこのささささささささささ  
 六十のいあをさされふけふの月

大梅 護物 茶静 荷乙 畦堂 素行 江魚 史弄 有臺 夢梅 以吉

月今宵

こけみ影のあささ光や今宵の月  
 月もろくのこれゆもろくささささ  
 ささささ家の業もろく月もろく  
 山もろくおもろくささささの月  
 一程のあふりもろく月今宵  
 月もろくあふりもろくささささ  
 つくふ色紙素もろく月と音  
 夢の穂のあふりもろく月もろく  
 鳥乃帰るもろくささ月と音  
 名古屋良夜 多ふ中を木のるもろく月もろく  
 月と音人ろく山もろくささささ

桃仙 好兩 保吉 長翠 三千彦 仝 仝 仝 仝 仝 仝 葛三 江魚

月見

朧その地もさうけあらず月こよひ  
月をきくかかきたるもき庵中隠れ  
十といねもさうて月見を在而くね  
月をさうて朧も居さういさうき  
神もせしふさう乾く月見も  
多摩澤さうてさうはあつる月見も  
あしはさう遠る月見もあつる月見も  
大寺の上下りさうさうさうさうさう  
戦さうさう人さうさうさうさうさう  
海もさうさうて月見もあつる永代も  
刻元あつてあつてあつてあつてあつて  
いさうさうさうさうさうさうさうさう

如洋  
三平彦  
士朗  
椿堂  
葛三  
沙鷗  
月底  
應々  
多代女  
荷乙  
百擗  
一澄

芋名月

月

産月作りて言葉さうさうさう月見外  
家毎ゆ火を焚里の月見もあつる  
さの戸の和さうさうさうさうさう  
芋名月山家もあつるぬ名さうさう  
芋名さうさうさうさうさうさうさう  
文銀の商人通る月見もあつる  
吟いさうさうさうさうさうさうさう  
秋もあつるさうさうさうさうさう  
大原やあつるさうさうさうさうさう  
舟もあつるさうさうさうさうさうさう  
笑もあつるさうさうさうさうさうさう  
月見をさうさうさうさうさうさう

玉芝  
有臺  
老雀  
長翠  
確嶺  
蕪村  
几董  
春鴻  
三平彦  
全  
全  
全

月の林池の菱葉又ゆそむる  
 松の木も旅ひもさるる月おし  
 夏級ふくは海を月夜を事  
 由森とす入旅もさるる月  
 知るる夏も林も大くこ日おし  
 くれ起よ車んせくそ波乃月  
 くれれさるる月をんかむる木の言ふ  
 あまこ波のさるる月をんかむる木の言ふ  
 こるる松木のさるる月をんかむる木の言ふ  
 静さるる夏もさるる月をんかむる木の言ふ  
 月をんかむる木の言ふ  
 月代もさるる月をんかむる木の言ふ

三千彦  
 葛三  
 全  
 巢光  
 樗坐  
 長齊  
 蕉兩  
 臥鶴  
 塊翁  
 兩塘  
 蒼虬  
 夙也

ここのさるる月をんかむる木の言ふ  
 夏級ふくは海を月夜を事  
 由森とす入旅もさるる月  
 知るる夏も林も大くこ日おし  
 くれ起よ車んせくそ波乃月  
 くれれさるる月をんかむる木の言ふ  
 あまこ波のさるる月をんかむる木の言ふ  
 こるる松木のさるる月をんかむる木の言ふ  
 静さるる夏もさるる月をんかむる木の言ふ  
 月をんかむる木の言ふ  
 月代もさるる月をんかむる木の言ふ

秀外  
 茶静  
 荷乙  
 全  
 史千  
 梅令  
 率雄  
 連志  
 北亭  
 孤村  
 静雨  
 如春

珠—この快くまぐえんや山の月  
 月の雪が—もろきそりり危  
 と秋さるん—あまき月陀那山うれ  
 江乃香の常をうらむ日秋うめ  
 隣うらむうらの届くう夜は  
 菊うらむ乃秋まて遠—山の月  
 松うらむうらむうらむ月乃雪  
 月さるんや梅ぬき木も—うは比  
 月さるんふ—しりり米搗男うね  
 不き家のゆらうまてあり山の月  
 月を友りてさるん夢う林三月  
 清うらむ月を指さるん男うね

与珠  
 老雀  
 五調  
 孟先  
 嘯月  
 梅窓  
 確月女  
 一耕  
 素好  
 輅聲  
 清湖  
 不仙

十六夜  
 月夜や雪の—もろきそりり危  
 珠うらむうらむうらむ月乃雪小松  
 ちりりのおろを月乃雪うらむ  
 菊うらむ山のゆらうらむ庵乃月  
 ちりり月乃林うらむうらむ月乃雪  
 戸さるん月乃夜まあり庵乃月  
 いさるんや松まえん—の雪月乃  
 十と秋さるんうらむうらむ松うらむ  
 月さるんやうらむうらむうらむ池の蓮  
 先をうらむうらむうらむうらむ方乃り  
 小菴さるんうらむうらむうらむうらむ  
 十六夜やわらう物焚てほのめうらむ

江戸  
 桃子  
 涼窓  
 雪哉  
 彌天  
 文雪  
 晚翠  
 二柳  
 三千彦  
 全  
 全  
 全  
 全  
 全

いそひや市をなぐさむ人の中  
十六夜や 氣おのふさか第ととも  
十六夜のはさうひて 檜 謙一き  
ゆきまむや ぬけみまむむ遠明り  
いそひハまき程ふ出る月夜うぬ  
十六夜や 昔のさびきまきぬを  
十六夜や 星の消うは  
既や 月又うての奇 糸わ  
十六夜も うそは 枝の夕う那  
ゆきまむや 越後へ帰る庵のち  
いそひまむころの外めえう南  
十六夜まむころ人のんる月夜う

葛三 全 全 庵杖 卓池 万籟 大梅 應々 三五國 百丈 一志 掌石

立待月

十六夜まむころのうさる月夜うぬ  
まむら夜や 月ま消さる山のま  
まむら夜や 月の名はも隣をな  
むらや かくてみる月を夜夜  
あひまむらうけま夜待の庵り月  
あひまむらうけま夜待の庵り月

千古 庭雅 左梁 兩紅女 確嶺 護物 茶徑 伯吏 素好 護物 確嶺 長翠

臥待月

月いふか計ても待らん 林つもの  
臥て待月や 高きまむら夜待  
臥て待月や 高きまむら夜待  
人のいふ 藤待まむらぬまの月  
まむらうてうてや 文中のふら月

長翠

亥中月

まむらうてうてや 文中のふら月





星月夜

月の夕除よまきまろくこるれらるる  
雨の月我手細工おむ末ぬこを  
さやとくしをんみりあふふの月  
るの月あふふ人の余はあしり  
晴安くおもひくもふも月乃る  
あふ海や雲をくこを星月夜  
か鳥をわてえん屋さし海青や星くぬ  
ほ一月夜おふこるもをりるを  
くつ夕おぬきし楸の浮葉うれ  
初夕やおる是えたる夜乃山  
けつ夕中酒を海入江の南  
初しおや和布の窓のるお

素因 荷乙 全 啄秋 蛙堂 駝岳 鷄周 良梁 長翠 全 成美 羅風

初汐

初汐の夕くあふる日さしりあし  
まら汐やまの雲よあくちりり  
初しおやねるのゆき垣のうら  
初汐やおれしりり子のあふ  
初汐よ若あの燈のうつりまを  
まら汐は風のあつする戸はうれ  
あふ多しつる若あのききさうを  
さし雲くしをる夜よ入る芒うれ  
味きよららあし芒の一夜あ  
芒よりあしちをるのききさうれ  
秋はくあしききさうあふの州  
ふくしあふ芒くはくしきさうり

丁知 祖卿 錦袋 碓嶺 尾村 全 蕪村 佛朔 蕉雨 士朗 三千度 擗堂

芒

干細のふらふらと 高くはるる水  
 夕陽の影を 生かす月よ  
 秋の切なさを 伝へる木  
 松風の音の 程は 松の心  
 伝へる方や ちやうど  
 押さへて 眺めよ 河の  
 並ねの石の 影を 素屋  
 山あり 砂を 吹く 菊雄  
 花の影を 人影の 影に  
 全 全 全 全 全 全 全 全

ありきの影を 人影の 影に  
 夕陽の影を 生かす月よ  
 秋の切なさを 伝へる木  
 松風の音の 程は 松の心  
 伝へる方や ちやうど  
 押さへて 眺めよ 河の  
 並ねの石の 影を 素屋  
 山あり 砂を 吹く 菊雄  
 花の影を 人影の 影に  
 全 全 全 全 全 全 全 全



花薄

近うたをどハ芒の月おろす  
風のみちりてを月まを落し  
えんをかきりぬめうらう芒うれ  
十分うてえん敷のある落る  
る所のあかおちたくすはか  
月よらまて芒もさうくうゆる  
おまう記身の捨あさうまわ  
動さハ様もくうらんまぬ芒  
芳ゆう家あきこまやまをまき  
戸にうら余はのてしむすし身  
系中やおろくかまき花をまき  
急の破さうくまぬやま芒

田文  
梅屋尼  
屏二  
閑庭  
好雨  
蓼歌  
葛三  
全  
卜早  
梅室  
苞竹  
桃吏

系芒

尾花

外あまそは極もいよやあ芒  
辰のうら風のかきり花をまき  
人わりあま行やあますし  
ま近くか目を入まうまう芒  
人まらてはあうぬあやゆと芒  
あまなるぬのうけをや系すまき  
あまや尾むうまう様まき  
ぬれまて日のまうまの尾ま  
門けり日影のゆる尾ま  
晴まうりの入うら尾ま  
ゆけ乃日まをまき尾ま  
一年の尾あま月の入あうぬ

春出  
弥天  
半嶺  
可月  
良梁  
左系  
白雄  
三平彦  
啓山  
玉岱  
佳風  
西阜

芒の穂

芦の蒼

芦の穂

小薙花

遠くくく入りのあたる尾ちり  
松芒の中かきさくわむ旭うら  
松あさりて秋の久きき苦うれ  
あさりてを候てくせや芦の糸  
柳まらゆつと風ありありのむ  
横さ海より日のこつける松芦の  
河の穂み里くすれさるる存るゆ  
芦の穂やまきくる持夕けうり  
芒の穂や舟う遊色ハ風乃ふく  
芦のふやふみもあなれん 是  
く入のくくの田畑やこちを候  
ゆのありさくくくあぬ小薙花

芦

千春 舞泉 玉芝 禾葉 兔刈 長翠 三千彦 梅間 素好 英丈 奇淵 閑庭

初紅葉

今そましく月りのあやしく小薙花  
実をむきふふふき花をよき葉の付え  
あさりて秋さくくく小薙花  
岩と水やいづきの魚く初紅葉  
初紅葉くくく未さよきんよきり  
くくく水霧り 中や初紅葉  
あさりてくくく初紅葉  
初紅葉上々のあさりて 西日うら  
池の魚くくくくくくく初紅葉  
くくくくくくくくくくく初紅葉  
日よ向く山よりくくくく初紅葉  
常くくくくくくくく初紅葉

雨庭 祖郷 柳女 南江 尾村 豊魚 其三 丁知 等裁 完鷗 祖風 香芸



龍をよしをよし日のありてま椒  
 もすけふけのさき椒やたす  
 佐良や柿もさきいー若さあ子  
 秋さくまうさきさき若さあ子  
 葉生さきやさきさきさき酒のさき  
 葉生さきあゆのさきさきさき  
 芥子蒔て小さくさきさき東戸のさき  
 芥子まきさきさきさきさきさき  
 川さきさきさきさきさき物さき  
 さきの日の持事さきさき菜をさき  
 桿川のさきさきさきさきさき  
 桿川や遠さきさきさきさきさき

千巻  
 静雨  
 三千彦  
 素郷  
 白旗  
 三千彦  
 護物  
 確月女  
 素好  
 確嶺  
 長翠  
 良梁

粟刈 粟刈やその日の月乃採合せ  
 胡麻刈 胡麻をさきさきさきさきさき  
 稲 林の戸も胡麻をさきさきさき  
 早稲 早稲の穂のさきさきさき  
 早稲 早稲の穂のさきさきさき

確嶺  
 長翠  
 連和  
 良梁  
 三千彦  
 葛三  
 啓山  
 茶静  
 田朗  
 北亭  
 長翠  
 三千彦



子孫のこゝや 晩稲のちの畦色に  
 早稲つとまをささくこ色さる楚うわ  
 子孫の香や 右あ左あおあ時  
 早稲乃まや 山出るまもハッ下里  
 山陰や 一重うけてまをーね刈  
 日暮き人とも 足ゆや 晩稲 臨  
 まるんささ 中 みたさる 山田 守  
 西ふき 満見ま 里さり 山田 守  
 毛見 宿の舟お ぬらせさる川  
 派やう小電 蘇け 里毛 足の若  
 秋田川や 吟て 休らふ身てさるさ  
 飯を足して 刈まも 秋さ 山田 守

音淵 素好 千額 確嶺 寥松 大梅 確嶺 千隣 蕪村 良梁 關更 桐居

晩稲

田を守

毛見

田川

口癖小稲をさかりさる。田川こうか  
 おこもさる。秋のおくさる。田川か  
 い孫刈や 干さるや 田み 香々 夕々 夕  
 又 早稲を やゆさる。小田の 出さる。居  
 稲刈や 居さる。路も おめさる。もの  
 うけ 稲刈の いさる。小園を 足さる。さる  
 稲つとまの 仕切の つさる。浪の 所  
 うけの や 宵月 出さる。小 深川  
 中かちり 落穂 ありさる。さる。の 雨  
 ささる。せの 粟の こさる。の 落穂 あり  
 秋 穂 ありさる。さる。け 一 落穂 あり  
 物ゆさる。いさる。さる。穂 あり

等仙 田朗 士朗 大梅 弥天 三千彦 全 阿兮 三千彦 乙二 護物 連志

稲刈

截稲

落穂



いづれもなきしうらも森々夜の丁  
晨明や丁鳴るこゝ山乃眉  
扇のまろき申さうらとみりおくれ  
おぼろるりも思案のいづれ丁の影  
丁鴨のまねえりうらの森をわ  
今よりと丁の志をうくおぼろるる  
小田の丁燕ふらふらとていふまじり  
森をいづれに戸にまじりて来 小田乃丁  
丁啼や燕ふらふらとていふまじり  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲

希言  
天布  
布川  
涼湖  
鳳朗  
茶静  
葛古  
茶徑  
芹翠  
冬扇  
易足  
其玄

乙鳥帰

鴨

誰々旅小伴一林をうんやみち丁  
すうめてさうぬねをさる丁の影  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲  
まじりていづれに夜ゆる秋の丁の聲

晚翠  
千古  
三千彦  
日人  
白雄  
長翠  
三千彦  
士朗  
月居  
一茶  
蒼虬  
荷乙

鶉

ういさくくそ居てあはくそ一谷の鶉  
まきももつてくれ多り鶉乃あ  
野のまきも鶉もつ隣う那  
まの野の鶉のまきもて吹まき  
野まきや草鞋とくより鶉あつ  
入おの鶉あき里やうつうま  
まの戸の鶉をこころやう鶉  
鶉のけのさけりまあり鶉ま  
刻元のう砂畑やあはふま  
まの力をねま出さやあはふ  
まにまに麻垣まかりかけま  
町中まにまにまにまにまに

朱木 桃吏 縣山 左くか 確嶺 梅室 涼湖 五什 三千彦 以吉 三千彦 蓼歌

鶯

あはふ

鶉

鶉まきや草鞋とくより鶉あつ  
入おの鶉あき里やうつうま  
まの戸の鶉をこころやう鶉  
鶉のけのさけりまあり鶉ま  
刻元のう砂畑やあはふま  
まの力をねま出さやあはふ  
まにまに麻垣まかりかけま  
町中まにまにまにまにまに

關更 曉臺 由誓 香芸 露舟 而右 苜磨 麦鳥 雨兮 全 龜成 一具



小鷹狩  
泊狩  
秋の蝶

萩のつ尾花をよむに小鷹狩  
 篠竹のせぬるをこゝろにゆりこり  
 飛ぶさく秋のきゆるや林の蝶  
 二つ来てあはれさきよ葉のてふ  
 林の蝶柱こゝろをよむあけけ  
 さのよすてふらつまみり林のてふ  
 傘あはいてまふくまあさの蝶  
 追れてもまふ謝きあ林のてふ  
 林の蝶ふさくみ来てくれみり  
 陸舞や蝶もよみ深とゆいそら  
 よくこれハ二つあさみぬ林のてふ  
 秋のてふ垣まてまはるハまきり

三千彦  
 全  
 茶静  
 素因  
 梅温尼  
 碓月女  
 抱琴  
 菊泉  
 思月  
 静兩  
 梅野  
 等仙

秋風

こもりけや嵐のあとに林ありせ  
 尾と戦鶴の相赤いあさき風  
 林風のあり方ハ星の林こゝろ  
 人ハ心乃さるるあも似林のあを  
 魂と見えしつらつらつら蝶の風  
 只居ても振るるるよあさき風  
 秋風やゆめ小もあせ立や  
 羽まの風このさきの戸もゆるゆる  
 秋風や小揚をくらえ舟の屋り  
 即ちかゆくささみ萩の林の風  
 秋風や障もあさき小笹芭  
 秋風や信若同士の落羽織

白雄  
 長翠  
 全  
 全  
 全  
 全  
 三千彦  
 全  
 全  
 全  
 全  
 葛三

龍巻の戸探ふ一板あきのの  
 夕ふ聖と長遠苗や林のうせ  
 杖風や心まててくも森見  
 あま風や人かしのけそ兼一舟  
 船をせやあつくりおの人まろ  
 杖風や驚くうのそく辰の市  
 あまうせやあまつりみく死吹出し  
 二月や眼のそまされぬ林の  
 樹をわて改居そくわや林の  
 あまうせやあまうてぬれ、殊のうを  
 秋ののうくくあ吹こもあきのの  
 枝あまきせ松をふくや林の風

葛三 全 全 全 全 巢兆 可都里 素檠 椿堂 秋拳 雲帯 乙因

同まあせ 叶末を友や秋の風  
 秋風や心をさるるまの楊柳を  
 家あまうせ芒もわりの 秋のうせ  
 秋のせやうまうをわく 笠の上  
 秋のあまう 是れうの 何きの  
 雲あまう 秋のうせ  
 秋風を 望見ぬ了とせハ 何きの  
 秋のせや 叶ハ 昔のう 小石  
 秋風を 冷とせう 葉のう  
 何の雲ま 日い 遠きう 秋のうせ  
 真へ 秋 結 秋のうせ  
 五月よ 秋のう 結のう 秋のう

舎用 李浦 半月 一具 稻慶 芦角 友松 尾村 加信 有川 南江 霞村







秋雨

あやの露もさきや 雨きのあ  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨

寒松 波鷗 陰風 蒼虬 半月 長翠 鶯室 豊魚 瓦村 卜早 陰風 吐月

秋の霜

秋の霜もさきや 雨きのあ  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨  
あつらうらうらう 秋の雨

千古 左不 白雄 長翠 龜丸 完明 挑仙 兔列 一夢 川二 春嶺 長翠

露霜

水霜

砒

泊るのまゝぬれやよぬるう  
 岐王寺の障下らまゝいゝ門破  
 ちやと旅の音うゝちや誰りまゝぬ  
 おもぬと年ぬの衣よまけぬるを  
 村はよ入もハうしりのまゝぬるか  
 世にうけて中へあまゝつぬる  
 きぬとあふふら人もあうり  
 松風やまゝぬれをぬれぬる  
 羨屋をぬれぬるちりきぬる  
 糸結たゝ有ぬる月をぬる  
 一夜ふと夜人のまゝぬる  
 中訓とおもむぬるまゝぬる

三千彦  
 全 全  
 音淵  
 蒼虬  
 沙鷗  
 双鳥  
 茶静  
 壺半  
 櫻園  
 乙良  
 菊泉

日向

宿のまゝぬれやよぬるう  
 宇重りのぬるぬるぬるぬるぬる  
 雨はぬるぬるぬるぬるぬるぬる  
 橋屋のまゝぬるぬるぬるぬるぬる  
 さとさとさとさとさとさとさとさ  
 竹の中へ左ちよあうぬれぬれ  
 とまゝぬるぬるぬるぬるぬるぬる  
 町はぬるぬるぬるぬるぬるぬる  
 寄道は山風まゝぬるぬるぬるぬる  
 古の山まゝぬるぬるぬるぬるぬる  
 ともまゝぬるぬるぬるぬるぬるぬる  
 川よまゝぬるぬるぬるぬるぬるぬる

糸山  
 木齋  
 此君  
 苜磨  
 月居  
 梅室  
 松什  
 瓦村  
 陰風  
 加後良  
 全  
 麦鳥



新良乃 暮つゝさくや 十二夜  
 月の良いつつや あり十二夜  
 月を月いゝれ きたに十二夜  
 むさふゝ夜 夜のみさふ十二夜  
 親二人 持てさひいゝや 十二夜  
 わさるゝもあゝふありけり 十二夜  
 白雲のさくゝさや 十二夜  
 響くふも 名月 宛 酒田 毎  
 夏名月 秋のちい 秋の 詞う 宛  
 さくいゝさくと 老ての 夜の 月いゝ  
 月の月 照るハ 秋さき 思ひあり  
 けり 素人 ち 老くゝさくゝさく 乃月

馬年 應々 淡香女 三民 苞竹 春齋 匣彦 長翠 良梁 蝶夢 白居 長翠

豆名月

后の月

昔ながら 娘も 仲や 后の月  
 后の月 山里 ちうく ちうく ちうく  
 いゝゝゝぬい 娘も ちうく ちうく 月  
 釋き ちうく ちうく ちうく ちうく 月  
 ちうく 昔の 忘れぬ 色や 后の月  
 后の月 藤 とうの 障の 標 水入  
 山里 ちうく 忘れぬ 月 后の月  
 后の月 月いゝ ちうく ちうく ちうく  
 ちうく ちうく ちうく ちうく 月  
 初小 ちうく ちうく ちうく 月  
 秋も ちうく ちうく ちうく 月  
 后の月 ちうく ちうく ちうく 月

三平彦 全 全 全 菅三 尾全 月居 樗堂 乙二 鞞風 護物 梅令



今年酒

さる波を足す時うふる妙酒うれ  
 茶瓢 知芳  
 さらきよその時をさるる妙酒う  
 馬卿  
 身よりしる秋よりさるる妙酒う  
 花海  
 ねたき時うふる妙酒う  
 春齋  
 寝る起る月より宿をさるる妙酒  
 五渡  
 後をのころも世もさるる妙酒  
 二兆  
 ともろくや外なき家よりふる  
 泉松  
 ともろくよ家より軍の冬をさる  
 ト早  
 妙酒うふる妙酒うふる妙酒うふる  
 節山  
 ともろくよ家より妙酒うふる妙酒  
 全  
 ともろくよ家より妙酒うふる妙酒  
 紅頂

醱醸漉

後の籬

九日菊

どのころくの法附ふ下波の他うれ  
 兔刈  
 ねんたれの中一ね蔭をさるる妙酒  
 江ノ  
 等仙  
 さるるハゆみ屋もふる妙酒  
 寥松  
 津のふのそれゆい妙酒  
 三千彦  
 菊のゆや陽も目をさるる妙酒  
 全  
 蔀兆  
 時きささるる妙酒  
 九日菊  
 ふらふのころんれハ妙酒  
 啓山  
 夕の露皆ふる妙酒  
 か法良  
 九日菊さるる妙酒  
 几芳  
 その戸をさるる妙酒  
 曙山  
 菊ありや借る妙酒  
 子越波

菊

昔の日のやあれとて年のと忘れ  
 菊の咲くちとあり昔の白うめ  
 昔の咲くよき昔のとん旅のと  
 川中嶋  
 夕の咲くよきとを花のさけしうめ  
 安中  
 秋の咲くころ初けの白くさる  
 長翠  
 山崎のまきと咲ら菊の  
 全  
 古今を返るをむと菊の花  
 全  
 松茸とたなくありとれまきのむ  
 全  
 むとありありは老くはぬ菊のむ  
 士朗  
 旅人よ一枝くれよまきのむか  
 全

菊のさきふとていさる菊、うめ  
 日みくか新くもほくまきのむ  
 成美  
 きくの香もありたりとゆき花か  
 可都里  
 盛徳のさきも菊をむの菊のむ  
 乙二  
 赤くくく花、うめ、まきのむ  
 全  
 位吉の松をさく、か春戸のまき  
 蒼乳  
 きく咲や隣りの松を買ふまき  
 一蕙  
 秋のさの花、菊、山崎、うめ  
 清女  
 折尾の傾城まき、まきの花  
 全  
 思年の大根、まき、菊、うめ  
 多氏女  
 昔のまき、まき、うめ、のむか  
 一肖  
 鈴のよき花、まき、菊の花  
 荷乙



うららかなるの葉も老てや山あり  
 葉おやをいむらるのあまらうら  
 まくの香もふれく風のつく小あふ  
 子をたんとやつむり葉のむ  
 山旅の菊人竹兵もきたれみけを  
 あくき林の白ひやるの菊  
 きく暖や大粒もをる門乃葉  
 二之新おを葉の久し名のみき  
 咲てめを豊の久し名のみき  
 文の板の友もたれう葉のむ  
 葉はつてたうみけりぬ登の林  
 葉のむらむらり山もあきくのみ

茶静  
 可布  
 涼湖  
 百擗  
 志丈  
 字石  
 有木  
 文良  
 素好  
 成績  
 三宿  
 景山

まくぬ葉もあつちあうり葉のむ  
 根も中せし海に柳て葉のむ  
 咲梅ふ小葉うきや花をきり  
 葉のまや小るらうりの日照り  
 葉らうりき山をきりてのむ  
 小葉も怪り眠るつ小葉 怪  
 葉のまよふらうりつり花のむ  
 花のまらつら花のむ葉のむ  
 葉のまや花のむ花のむ  
 葉のまらうりつり花のむ  
 葉のまらうりつり花のむ  
 葉のまらうりつり花のむ

由誓  
 半月  
 已有  
 梅幹  
 菅磨  
 素元  
 一具  
 五渡  
 松什  
 卜早  
 全  
 丁知





柚

藥堀

木實

椎實

村きりみ通るるあり赤木香  
 秋うつりこりけみちあり我木香  
 夕うけのちやつうかきとくはく  
 柚の木乃ちくくむのちや後ゆき  
 さものゆも一さくくはく柚の白  
 軒まねぬせとちありつて茶あり  
 後まねぬとちありてはうん茶堀  
 後まねぬ木の実を後ゆ柴車  
 後まねぬ木の実を後まねぬ舎うぬ  
 さものゆも一さくくはく柚の白  
 送り後や柚とちありては物  
 柚のちやちやとちあり西のちやちや

方舟  
 以吉  
 文樵  
 三千彦  
 全  
 一瓢  
 孤星  
 長翠  
 茂什  
 綾國  
 長翠  
 確嶺

椎柴

栗

落栗

椎のちやちやとちありては物  
 ちのちやちやとちありては物  
 柚のちやちやとちありては物  
 後まねぬ木の実を後まねぬ舎うぬ  
 さものゆも一さくくはく柚の白  
 軒まねぬせとちありつて茶あり  
 後まねぬ木の実を後ゆ柴車  
 後まねぬ木の実を後まねぬ舎うぬ  
 さものゆも一さくくはく柚の白  
 送り後や柚とちありては物  
 柚のちやちやとちあり西のちやちや

涼湖  
 茶静  
 静雨  
 左くめ  
 左梁  
 公山  
 三千彦  
 全  
 ちや女  
 卓池  
 田朗  
 三桂

八  
 十







猶紅葉

楓紅葉

ぬく紅葉

穗紅葉

林紅葉

葛

そらあけくさくさくわて橋のりくさくさくわ  
んりくさくさくわを衣はあけくさくさくわ  
森の楓もくさくさくわ枝も衣はあけくさくさくわ  
楓もくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
退くくさくさくわ秋のあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
ぬくくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
りくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
拾くくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
牛もくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
あけくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
あけくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
あけくさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ

卓郎 左ノ木 一肖 良梁 長翠 今 龜文 聖磨 長翠 三夕 長翠 茶静

珠數子玉

末枯

珠數子玉を衣はあけくさくさくわ  
末枯の帰るるくさくさくわ  
末枯のあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
くさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
末枯や関谷のあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
くさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
くさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
末枯や関谷のあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
くさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
くさくさくわあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ  
末枯や関谷のあけくさくさくわ衣はあけくさくさくわ

乙二 碓嶺 長翠 今 涼湖 龜丸 青仙 梅居 涼窓 三帟 春齊 桃仙



鹿

蕙くつて脊乃骨言し一鹿のあ  
秋の明く山のささく鹿のこゑ  
おとまり軍とまかり鹿志の音  
鹿啼くさあふられけり秋の山  
月もささ鹿の真止しもささる  
園の鹿 沙き林よりくさるを  
啼きさのーおささささー無屋の  
鹿啼くさささささささささ  
ささささささささささささ  
志のささささささささささ  
鹿志の消聲ささささささ  
秋鹿のささ曲川 流もささ

園更 大江九 儿董 尾全 長翠 全 三千彦 全 全 全 全 全

鹿のささの風もあさささささ  
おささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
鹿啼くささささささささ  
入内やささささ鹿のさささ  
鹿啼くささささささささ  
おささささささささささ  
さささささささささささ  
さささささささささささ  
鹿啼くささささささささ  
満ささささささささささ

涼湖 三葛 儿明 啄秋 連志 犀二 秋鯉 柳室 孟光 川帯 五十二 田朗







冬隣

ちんまりと山里ありぬを隣り  
川むらゝいゆき小家や 冬とあり  
夕雲の去るを待てむやを隣り  
隣りなくもあつともなる小家うら  
秋やをむ念日ゆきをねと出で  
秋を惜むむあつとも隣り  
むもあつとも見と目と秋を惜む  
ねは魚のまゝと秋を惜む  
けつふせとものより秋を惜む  
そんりつとを秋の惜む  
ひつとを秋のあつとも  
州の戸や秋名跡をねをつまみ

寮松  
ト早  
蔭山  
風齋  
五渡  
事松  
尾村  
全  
ト早  
麦鳥  
樂山  
祖郷

秋惜

秋名残

九月盡

錦弓の弦引切了九月盡  
限も居ぬあつともあつとも九月盡  
不二名ゆ日や念の九月盡  
ゆきとや田ねもあつとも九月盡  
降るもあつともあつとも九月盡  
島の雨もあつともあつとも九月盡  
波あきのあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡  
あつともあつともあつとも九月盡

曉臺  
三千彦  
士朗  
已有  
知芳  
梅笠  
静雅  
事松  
かた  
龜成  
祖山  
全

流をたづねて 新よりの人あり 九月 亭  
 大いなるまじりて ちひさき 九月 亭  
 魚をとりつゝ ちひさき 九月 亭  
 世に何をたづねて 新よりの人あり 九月 亭  
 言のやまをたづねて ちひさき 九月 亭  
 新よりの人あり ちひさき 九月 亭  
 ちひさき ちひさき ちひさき 九月 亭

河 亭  
 紅 頂  
 木 齋  
 波 鷗  
 南 溪  
 李 補  
 祖 卿

